

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームゆうゆうの家 ユニットB	評価実施年月日	平成20年9月10日～9月16日
評価実施構成員氏名	大門美穂子 鈴木蒔子 池野岬 小坂橋弘恵 前田裕也 鈴木百合子 上島典貴		
記録者氏名	鈴木 百合子	記録年月日	平成20年9月29日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>認知症という病気の状態に関わらず、一人の人間として生きている事の素晴らしさを実感できる暮らしが出来るよう、支援している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>運営理念はホーム内、応接室、職員休憩室等に掲示し、目に入りやすい環境を作り、職員が常に理念を意識できるようにしている。また管理者、法人役員は日常的に、職員の行動が理念に合致しているかを配っている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>面会時、入居時や見学の際、運営推進会議、また町内会の行事参加の中で機会があれば、地域の中で暮らし続ける大切さについて触れ、また応接室等外部の目に良く触れるところに、運営理念を掲示している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>当法人の役員が当該地域の民生委員として、地域の高齢者や近隣の方と普段から接し、また職員や入居者様も外の花の水遣り等を通して挨拶を交わし、近隣の商店に入居者様と一緒に買い物に出かけたりする等、親しく付き合いをさせて頂いている</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>参加できる入居者様は、町内会のラジオ体操や盆踊り等の地域行事に毎年参加する等、地域の方とのふれあいを大切にしている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>法人役員が民生委員を委嘱されており、また、事業所内の住宅に法人代表が住んでいるという利点も活かし、業務に関する知識を活かして支援が必要と思われる高齢者がいる世帯への相談等を行い、地域に貢献している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様からの訴えがあった場合、傾聴し、管理者、職員で話し合い、また、利用者様が普段からどのような想いを持ち生活しているのか、考えていること、思っている事を積極的に出して頂けるよう、配慮している。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月のご家族の面会時の際に、管理者から直接、日常生活の様子や健康状態、金銭管理状況等を報告している。利用者様個人の日常生活の写真を集めて個人アルバムを製作している。またご本人の状態に変化があった場合はその都度報告を行っている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ほとんどの方が長期間入居されているので、疑問等が気軽に聞けるような雰囲気、関係が構築されている。現状ではほとんど不満、苦情は無いが、御家族に気軽にご意見を出して頂けるような関係が維持できるよう努めている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>法人役員と職員の間でEメールやBBS等での積極的なコミュニケーションが交わされ、運営に活かされている。又、日常の業務の中で職員と管理者との意見交換が常に出来る状態で、それを速やかに法人代表に上げるという体制が整っている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>常勤職員のみ勤務時間で配置基準が満たされるような十分な人員配置を行った上で、パート職員を、必要に応じて勤務シフトを変更し、必要な時間帯に必要な介護力を確保するという形で、柔軟な対応が出来る勤務体制になっている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>法人役員が、やむをえない場合を除いた離職率をなるべく下げる為、様々な面を考慮して工夫をしている。また新人職員が入る場合も、なるべく通常の人員にプラスして、余剰人員として入るようにする等、利用者様への影響を最小限にするべく努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所することが全てではないことを説明し、必要としているサービスを受けることができるよう選択肢を説明、理解して頂き、必要に応じて地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等につなぐなどの対応をとっている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族に現在までの生活暦や要望、本人の嗜好や生活のリズム等、必要な情報を収集し、又、ご本人の意向を傾聴し、性格や、嗜好など他の利用者様との相性なども考えながら徐々になじめるよう細やかな配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は入居者様に対して、人生の先輩であるとの尊敬を持って接し、信頼して頂けるような関係作りを常に心がけた上で、ご本人にやってみたい事、要望を共に過ごしながら会話などを通じて把握し、自主性を重んじ、それが達成されれば共に喜び合う関係を築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が来所しやすい雰囲気作りをし、情報や意見等を交換する中で、ご家族も共にケア参加して頂き、一緒にご本人を支えて行けるような関係作りをしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人とご家族の関係を損ねる事無く、ご本人の状態を理解して頂き、ADLの低下や認知症の進行等を受容して頂けるよう配慮し、認知症により家族関係がダメージを受けている場合はそれを修復し、より良くしていく事ができるような支援を行っている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の意向に沿って、昔からの友人と電話や手紙で連絡を取り、馴染みの場所に出かける等、関係継続の支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個人の性格や、嗜好を見極めたうえで、各入居者様がどのような人なのかを、他の入居者様にも理解をして頂き、孤立することの無いように、職員による会話の提供やレクリエーションを通して、お互い分かりあい、支えあえる関係が作られるように支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ご本人が亡くなる等で退所後も、何かあれば相談を受ける事が可能な旨をお伝えしており、入居されていた方が亡くなった後も、毎年家庭菜園の野菜等の差入れを頂いたり、裏庭の整備のお手伝いをして頂くなどの良い関係が続いており、感謝しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話などを通じて、過去の暮らしぶりや環境を知るように努めていく中で希望、要望を引き出し、意思の疎通が困難な状態の方であっても、身振り等で本人の意思を把握するよう努め、トイレに行ったり、自立歩行ができるなど、本人本位で、原則的には少しでも自立した生活が送れるよう検討し支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やご本人からは過去の生活歴、生活環境や普段の暮らし方を聞き取り、ケアマネージャーや他のサービスを提供していた事業所などからも必要な情報収集を行い、これまでの経過等の把握に努め、今までと出来るだけ変化の無い生活が送れるよう、今後のサービス提供の参考にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員間の連携を密にし、心身や介助方法の変化にもすぐに対応できるように、また、各入居者様の1日の行動、状態が見てすぐに理解できるよう、個別記録の他に連絡ノート、日誌等にまとめ、管理者や他職員と常にケアについて検討できる状態になっている。	○	記録に関しては、より見易く、かつ誰でも理解できる書式、内容で有るよう、より工夫が必要であり、今後改善に取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員、ご家族と職員は様々な問題点や改善点を含め、活発な意見交換を行い、ご本人の気持ちに応える事が出来るような介護計画の作成に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>37 ○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>計画の期間に応じてモニタリングを行い、新たな計画が必要になる場合は、ご本人やご家族の意向を聞きながら作成する。また基本となる介護計画とは別に、その時々の変化に応じ、即応できるよう、随時介護支援専門員と職員が協同して様々な試行的なプランを実行している。</p>		
<p>38 ○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人個人の日常の様子や、ケア内容等の個別記録を作る中で、気づきや提案、工夫があれば情報を記録し、職員間で連絡ノートなどを使用して伝達、共有することにより、より良い介護へつなげていけるよう工夫している。</p>	○	<p>記録、連絡ノート等だけでは情報が確実に伝達、把握されない場合があるため、その状態を解消する為の、工夫・努力がより求められる。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>39 ○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>訪問診療、訪問リハビリ、訪問理容の提供や、ご家族に、関連する情報の提供を行う等、多面的な支援を行っている。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>40 ○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>地域のボランティアの演劇や、唄の会などの協力を頂き、また、法人役員が民生委員を委嘱されている関係を活用し、地域資源との協働を図っている。</p>		
<p>41 ○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>ご本人の希望や必要性などに応じて、地域にある居宅介護支援事業所やサービス事業所と密接な連携が速やかに取れるよう、日常より関係作り、交流をしている。</p>		
<p>42 ○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>地域包括支援センターの方と、権利擁護やその他諸制度についてお互いに情報交換を行う等、良好な関係が作られており、日頃から協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	基本的に入居前からの本人のかかりつけ医への受診の支援は勿論の事、状態により通院が出来なくなった入居者様への、訪問診療への移行の支援等を行う。また、当事業所の常勤看護師が日常の健康管理を行い、かかりつけ医、訪問診療とも連携する等、適切な医療を受けられるよう支援をしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症について知見の有る医師複数と連携を保ち診断、治療、アドバイスを受けられる体制を築いている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として常勤の看護師を確保し、日常の健康管理、医療機関受診の支援を行っている。看護師が居る事で、入居者様が自ら体調の変化等を相談したり、アドバイスをもらうなど良い関係が形成されている。現在常勤の看護師は高齢者看護に関して非常に多くの知見、経験を持っており、より有効な医療連携支援が出来るよう努めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際の準備や、入院中の身の回りの事など管理者や担当者が行き、病院関係者との情報交換や相談に努め、早期退院を目指した支援を行っている。遠方等の理由でご家族の支援が得られない時には、事業所がご家族に代わり入院中の全ての支援を行い、安心して過ごせるよう配慮している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	基本的に事業所としては、ご本人及びご家族のご希望があれば、最後まで看取る方針であり、かかりつけ医やご家族と連携し、職員とも方針を共有している。また既に看取りの事例が複数あり、今後も継続していく予定である。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度、終末期の利用者様に対しては、医師、看護師、職員のそれぞれが役割を明確にし、連携を保ち、可能な限り住み慣れた所で過ごして行ける様支援している。	○	終末期のケアに対する知識を職員が学ぶ機会をより増やして行きたい。医師や看護師を交えた勉強会を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人やご家族が住み替え時を希望される場合には、必要や希望に応じて住替え先選択の為の見学に、管理者等が同行したり、本人の状態を熟知した職員による引越しのお手伝い、住替え先の関係者やサービス提供事業者、ご家族と入念な打ち合わせ、情報交換を行い、移動のダメージを最小限にする為、必要な情報提供を積極的に行い、支援している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様に対する声かけは、常に誇りや自尊心、尊厳を大切にすよう、職員が互いに意識、注意し合いながら行っている。また個人情報の取り扱いにも、入居者様のセンシティブな情報が含まれている事に留意し、注意深く取り扱っている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らすように支援をしている。</p>	<p>入居者様個人個人の状態に合わせた働きかけを行い、少しでも自分の意思で決定できるよう支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日の日課を時間に合わせて行うのではなく、入居者様のペース、体調や、その時の希望に添って、本人本位の支援をするよう努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご自分で衣類を選べる入居者様に対しては、自主性を尊重し、本人の希望に添った服装を選んで頂きながら、さり気なくTPOにあわせたアドバイスを行い、ご自分で選ぶ事が困難な入居者様に対しては、季節感やバランス等を考えた服装選びを心がけている。理容、美容は訪問理容を利用し、以前より利用している美容室等の有る方は、ご希望に応じてそちらの利用も支援している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>配膳、下膳、食材の皮むきや下ごしらえを出来る方には手伝って頂き、小さなことでも準備と一緒に出来る機会を、本人の意思にあわせ提供している。喜んで手伝って頂ける方も多く、また、それが食事に出てくると職員とそれを話題に談笑する場面もある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	晩酌を習慣にしていた方が新たに入所された際には、医師とも相談の上、本人の希望時に飲む事が出来るよう常に用意している。おやつの内容や盛り合わせについても、各入居者様の好みにあわせ、楽しんで頂けるよう工夫している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツの使用をなるべく減らす事を目標に、各入居者様の状態や、排泄のパターンを職員が把握し、声かけ、促しによって、なるべくトイレで自然な排泄ができるよう、不快な思いを減らす努力をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	慌しい入浴になる事を避け、ゆっくりくつろいで頂けるよう、現在基本的には週4日の入浴を設け、本人の入浴の意思や希望にあわせて、楽しんで頂けるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	各入居者様の体調や生活リズムに合わせて、夜の睡眠時間以外にも休息の時間を随時とって頂いている。また、寝具交換や布団干しも定期的に行い、清潔な環境で気持ちよく過ごして頂けるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	過去の生活習慣を活かし、日々の生活の中で役割を持って頂き、自信や満足につながる支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ある程度金銭の管理が出来る方の場合、外出時と外出後に一緒に残高確認を行う等、金銭の管理には充分気配りをし、ご本人の力や希望に応じた支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望に出来るだけ応じて、買い物や散歩の機会を設け、選ぶ楽しみ、買う楽しみを共有して、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	温泉や、お祭り、盆踊りなどで、地域の社会に触れる機会を設けたり、御家族同伴での外出・外泊の支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば各居室に個人の電話回線を設置できるよう、居室の設備が整っている。また、季節ごとのハガキを作成したり、書ける範囲で自筆の手紙を出す事が出来るように支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族はもちろん、ご家族以外の方も気軽に面会、訪問しやすい雰囲気作りを心がけている。プライバシーに配慮して、訪問して頂く度に書かなければいけない煩雑な面会簿などは無く、誰でも気軽に来所できるよう、努めている。面会簿がない分、職員は面会者にも十分注意を払い、どの入居者様に対して、どなたが訪問したのか把握し、記録を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しては、研修でも取り上げ、管理者と職員は日頃から常に意識して業務に当たっている。身体的な拘束だけではなく、言葉による拘束や薬物による拘束も注意を払い、拘束が無いケアを実現している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	深夜においては一般家庭と同様に玄関の鍵をかけているが、鍵をかけないケアに取り組んでいる。日中は常にホールや居室での入居者様の所在の把握をするよう努め、見守っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に所在の把握が出来るよう意識し、居室にいる入居者様に対しては、用事のある際にさりげなく声をかけたり、夜間は睡眠の妨げにならないように注意を払って、様子を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の状態に合わせて、全ての危険物を無くさずに、ハサミや爪きり等安全と確認した上で使用して頂き、職員は使用の際は注意を払い見守りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒の恐れの有る方の場合、歩行時の付添い、就寝、静養時の定時の見守り、服薬時の複数職員による確認等、事故を防ぐ為の細心の注意を払う努力を行っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急病、急変、緊急時のマニュアルは常に目に届くところにあり、研修の機会等で再確認している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練時以外にも外出時等を利用して、すばやく、かつ安全に誘導できるよう心がけている。ホーム内居住の法人役員や、近隣の職員とその家族等のネットワークを利用して災害対策を立てている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族には面会時等に現状でのリスクについてご説明申し上げ、状況を随時、正確に把握して頂き、リスク対策を行った上で、なるべく抑圧感の無い生活を送って頂けるよう配慮している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1日2回、午前と午後の血圧と体温測定以外にも、表情や食欲、尿や便の状態など身体的な変化に常に注意を払い、異常が見られた場合は速やかに看護師、管理者に報告し、記録している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人個人の薬の情報はファイルし、職員がいつでも確認できるようになっている。薬の誤配を防ぐ為、必ず2人以上の職員の確認を取るという手順が決められている。服薬の際に関しては、確実に飲み込んでいるかまで確認し、複数の職員間での再確認を行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便表をつけることにより、1日の排便の回数、量や状態を常に把握し、管理者に報告をしている。毎日ヨーグルトや食物繊維を豊富に含む食べ物を摂取したり、全体、個別の歩行や運動を取り入れ、身体を動かす機会を多く持つ事により、健康保持と便秘解消に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後とおやつ後に必ず歯磨きを行い、個人の力量や口腔の状態に合わせて、ご自分で出来る方もさり気なく磨き残しのチェックを行い、舌ブラシ等も活用し口腔衛生を保ち、肺炎の予防もできるような支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の水分量の目標を、個人の状態に合わせて設定し、一日を通して無理の無いようにバランスよく水分摂取が出来るよう、計画的に支援している。また、病状に合わせた食事量や内容の配慮をし、ご家族からの差入れが有る場合はそれも考慮に入れ、総合的な栄養摂取のバランスを考えた支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いを励行し、手洗い後のタオルは、使い捨てを使用し、職員は一人一人自分専用のタオルを使用するなど、感染症の予防に努めている。	○	今後、H5N1亜型ウイルス等による高病原性鳥インフルエンザのパンデミックの可能性が有る為、その対応策についても検討していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所内は台拭き、まな板の漂白を行う等、常に衛生管理に努め、外気温や季節を考え冷蔵、冷凍など保存に細心の注意を払い、新鮮な食材を可能な限り加熱して使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先にはプランター鉢花を置いたり、玄関内に花を飾り、明るい雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日の清掃。1日3回以上のトイレ清掃を行い、不快な臭いの解消に努めると共に、季節に合わせた飾りや居室の暖簾など、生活感のある、自然な住まいの環境に近づこう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用の場における、各入居者様のお気に入りの居場所がほぼ決まっており、その時の気分に応じて自由に過ごされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様が過ごしやすいように、使い慣れた家具をお持ちいただき、配置等工夫して動きやすいような環境を整え、思い思いの、居心地の良い居住空間が出来ている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各部屋に、温度計湿度計を設置し、冬場は乾燥を避ける為加湿器を使い、本人の体感温度も確認しながら、適宜換気、温度調整をし、快適な空間を作るよう心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	突起物など危険なところは排除し、手すり、段差の排除や椅子などの道具を使用して、安全で自立した生活を送る事が出来るよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人一人の理解する力を把握し、認知症の病態を理解した上で、適切な声かけや誘導を心がけ、自立を促す工夫をしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関の花壇や、畑で野菜などを作り、建物の周りで色々楽しめるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

出来ることは自らすすんで行き、自由に自分の意思表示ができ、かつお互いを思いやる生活を目指し、利用者様の自主性を尊重するケアを行っている。

1F・2Fとも「目の前にいるお年よりは明日の私」を肝に銘じ、利用者様主体のケアを心がけている。